

会議録

会 議 の 名 称	令和 8 年度第 5 回新城市若者議会（新城若者トーク）
開 催 日 時	令和 8 年 8 月 3 日（月）午後 7 時から午後 9 時まで
開 催 場 所	新城市役所 4 階会議室
会 議 の 内 容	・「つながる地域と若者の輪」の報告 ・各部会の検討状況報告及び意見交換 ・自由意見交換

1 「つながる地域と若者の輪」の報告

同日日中に中学生を対象とした「つながる地域と若者の輪」を開催した。今年度は鳳来北西部地区を取り上げ、鳳来寺山におけるフィールドワークとワークショップを実施した。以下は、フィールドワーク及びワークショップの結果に関する参加者からの報告内容である。

Aグループ	良いところは、歴史がたくさんあることで、課題は、地面がでこぼこであることや空き家が多い、活気がないなどの意見が出た。これを踏まえ、イベントを行うなどの解決方法が出た。自分たちにできることは、イベントの運営をしたり、イベントをアピールしたりすることである。
Bグループ	歴史や伝統が溢れており、自然が多い点が新城全体を通して良いところである。鳳来寺山においても、参道に古民家が並んでいるなど、歴史に関するものがたくさんあり、活用方法も様々あると感じた。一方で、新城市は人手不足や少子高齢化といった問題があり、金銭面でも課題がある。清掃活動をまず 1 つ例として挙げてみたが、観光客にとっても私たち地元の人にとっても、ゲーム感覚で楽しく活動できたら人が集まったり、お金がたまったりなど、利点が多いと思った。鳳来には、たくさん良いところがあるため、それを活用できる方法を私たち若者が考えていけたらよいと感じた。

2 各部会の検討状況報告及び意見交換

各部会の検討状況を報告した後、若者議会のメンバー、一般参加者及び鹿角市若者議会検討委員会のメンバーを含むグループごとに意見交換を行った。

以下は、各部会からの報告内容及び意見交換後に各グループから全体に共有された内容である。

(1) 若者が自分らしくいられるまち部会

ア 報告内容（全文）

若者が自分らしくいられるまち部会では、まず新城市に欲しいものを部会のメンバーと話し合いをしたり、アンケートを取ったりしました。その結果、若者が集まれるカフェや飲食チェーン、ショッピングモールなど学校帰りに寄れる場所、遊べる場所がほしいという意見がみられました。毎年とっている若者議会に関するアンケートにおいても多く寄せられている声です。

チェーン店などについては、店舗展開を考えている企業などを探し、PRしていこうと思っていますが、市として整備できる提案内容を検討するため、これらの意見の根底にはどんな思いがあるのかを部会内で深掘りしました。その結果、「仲間とともに過ごす時間がほしい」ということが根底にあると考えました。

「仲間とともに過ごす時間」というのは、新たなつながりや、若者が孤立せずに過ごせる場所を求めるという意味の居場所ではなく、「基本目標 1（2）余暇や趣味を楽しめる」を目的として設定しました。

仲間同士でつながる場が生まれることで、若者が新城で自分らしく生き生きと暮らせることにつながり、まちに活気が生まれたり、新城で暮らすことへのポジティブな感情が生まれたりすることにもつながると考えました。

目的・方向性が決まったので、今後は、それに沿って新城市にすでにある場所や施設などには何が足りないのか、何が問題なのかを深掘し、事業内容の検討を進めていきます。

今日の若者トークで参加者の皆さんに聞きたいことは、これからの事業内容などに向けて新城市にすでにある「仲間とともに過ごす環境」にはどのような課題があると思っているのかと、もし仲間とともに過ごすどのような環境があれば「若者が自分らしくいられるまち」につながると思うのかを聞きたいです。

イ 意見交換の内容

Aグループ	高校生などの学生の帰り道には、集まれる場所や空間がないため、大きなスーパーや集える空間があるといい。
Bグループ	若者が集まる商業施設はあるが、交通の便が悪くアクセスしづらい（鹿角市）。施設の改善も必要だが、来づらいと意味がないため、交通の便を改善することにより若者が集まり過ごしやすい環境にできるのではないかな。
Cグループ	立地条件が大切。 東三河の穂の国パスポートの高校生・大学生バージョンを作るといい。
Dグループ	ボウリング場やゲームセンターなどの遊ぶ場所がない。 放課後に話したり勉強したりする長居できる飲食店がない。 飲む場所がない。

Eグループ	商業施設が中学生の遊び場となっているが、飽きてしまう。 高校生は、まちなみ情報センターや図書館があるが、学校から遠く行きづらい。 子育て世代は、子どもたちの遊び場として総合公園があるが、夏場は暑い。 鹿角市にもお店がない。休日でも市外に出てしまう。 学校帰りの思い出づくりとして場所が欲しい。 学校の近くに欲しい。 気軽に入りやすい雰囲気だといい。
Fグループ	学生や若者が学校おわりに遊べる場所がない。どこかに行くにしても電車の本数が少なく、電車賃もかかる。 若者向けの場所で、電車に乗らなくてもいける場所、アミューズメント施設やプリクラが撮れるところが欲しい。 図書館など勉強する場所はあるが、話せないためもう少しワイワイしながらいられる場所があるといい。
Gグループ	まちなみ情報センターのリニューアルや周知をしてきたが、いまだに自習室という印象がとれていないのがもったいない。今すでに新城市にあるものだから、これをより良くしてもっと活かしていけたらいい。

(2) 若者にとって誇れるまち部会

ア 報告内容（全文）

私たちは、「若者にとって誇れるまち新城」を実現するため、まず、目指すゴールを「新城市を知ってもらうこと」と決めました。そのためには、ファーストインパクトを重視した情報発信が重要であり、SNSや影響力のある人を活用して、新城市の魅力を広く発信する必要があるとの意見が出ました。

また、「知ってもらう」ことをきっかけに、「訪れてもらう」「好きになってもらう」「住んでももらう」へと段階的につなげていければより新城が盛り上がり活性化すると思います。

次に、新城市の魅力を生かした具体的な政策について検討を行いました。知ってもらう、「訪れてもらう」につなげる要素として、豊かな自然や特産品を生かしたキャンプやアウトドアを中心に政策を考え、キャンプだけでなく、農業体験やハンドメイド体験、ジビエ料理、サウナ、天体観測など、新城市ならではの体験を組み合わせることで、幅広い年代が楽しめる体験や料理を充実させることが重要であるとの意見が出ました。

また、山びこの丘など既存施設を活用し、キャンプ初心者からファミリー、カップル、ソロキャンパーまで、それぞれのニーズに応じたコースやプランを考え、地元の特産品やジビエを取り入れた既存のBBQセットメニューの改善や新城の特産品を多く取り入れた「新城セット」の開発など、食の魅力を発信していくのも良いと思いました。

全国で人気のキャンプ場や体験施設の事例調査を行い、山びこの丘で新たに取り入れられそうな体験として、バウムクーヘン作り、サウナ、風鈴づくり、天体観測、サバイバルゲームなどのアイデアが出て、最近の流行や若者の興味を取り入れ、多くの観光客が楽しめる体験を作りたいと思います。

山びこの丘を実際に活用することを想定し、既存のBBQメニューの充実や、新城市の特産品を取り入れた「新城セット」の考案、キャンプと体験を組み合わせた1日プラン、若者によるSNSでの情報発信など、まだまだ考えていけないといけないことがたくさんありますが、実際に目で見たり、行ってみたりしないとわからないことが多くあるので、山びこの丘や新城市内の観光スポットを視察し、担当の方との意見交換や実際にできるのか、難しいのか、改善点や新たな魅力を検討するとともに、新城でしか体験できない魅力を創出し、観光だけでなく関係人口の増加や移住促進につながる政策を進めていきます。

イ 意見交換の内容

Aグループ	キャンプに何を求めるかということに注目して意見を出してもらった。一人でキャンプに行く人と家族など大勢で行く人に分けて考えた。ソロキャンプでは、快適さを重視するため、食材セットが事前に準備されているといい。新城市では、鳳来牛や美味しい野菜を生かしたセットを用意するのがいい。家族や大勢の人にとってはサバイバル系が楽しい。例えば、テントを自力で張れたり、魚が釣れたりしたら食材をプレゼントするようにしたら楽しい。焚火もいい。
Bグループ	安全で安心なキャンプ場についての話が出た。例えば、鹿角市では冬眠を終えた熊が公園に出没し、子連れが安心して遊べない。 体験の面では、飯盒炊爨やアユのつかみ取りなどの自然や地形を生かしたプログラムや、地産地消のグルメ、農産物、高原野菜を活用するプランなどの意見が出た。
Cグループ	どんなキャンプ場が行きやすいかという話をした。小さい子ども連れだとテントを張ることが大変であるため、ログハウスなどがあったら行きやすい。 ジビエを食べられるが、ジビエという言葉が何か分からないため、ひと目でわかるよう、イラストなどをパンフレットに載せるといい。
Dグループ	交通面に関する意見が多く出た。高校生は、お金がかかる電車を使いづらいため、車を持っている親子連れが前提となる。ターゲットを絞ったほうが行いやすいのではないかと。地形を生かしてロープウェイを作れば、珍しい体験として良い思い出ができるのではないかと。

Eグループ	企画自体はとてもいい。重要なのは、PRの仕方である。市内の人は近いため、キャンプはあまりしないと考えられる。市外の人をターゲットにすることが重要だという話が出た。 ふるさと納税を活用し、返礼品としてキャンプや体験ができると、PRとしても話題性としても良い。有名なアプリを通して新城をより豊かにできるのではないかな。
Fグループ	キャンプに着目した点はとてもよい。 鹿角市でもお祭りが盛ん。新城市でものぼりまつりなどのお祭りを観光プランに取り入れるとよい。 魚のつかみ取りは食育に繋がってよい。 リピーターを増やすことが大切。
Gグループ	生かしきれていない部分が多いという意見が出た。その1つに磨きをかけて、「新城といえばこれ」というものができるとうい。知ってもらい、訪れてもらい、好きになってもらうことでリピーターを増やすことが大事だという話になった。 農業お手伝い旅のような形で産業などと結び付けてやってみてもよい。

(3) 若者がともにつくるまち部会

ア 報告内容（全文）

今、私たちに必要なのは「本音を言える場所」、そして「誰もが気軽に寄れる場所」だと考えています。行政が毎年実施しているアンケートも大切ですが、アンケートだけでは拾いきれない市民の本音や、少数の大切な意見が必ず存在します。だからこそ、1回限りのイベントではなく、継続的に人が集まれる「場づくり」が必要だと考えています。

第2次新城市若者総合政策には、若者がともに作るまちとは、「多世代が様々な意見や思いを出し合いながら作り上げていくものである。若者の思いをもとに、常にまちの様々な立場の人と協力していく環境が必要である」と書かれています。

部会で「どんな新城市にしたいか」を話し合った際にも、多世代の人が不満も満足も正直に吐き出せる場を作りたいという意見が出ました。意見を集める場所をつくるためには、まず何よりも、様々な立場の人から意見を収集することがスタートだと考えました。

そして大切なのは、単なる「感想」で終わらせず、まちを良くするための具体的な「意見」へとシフトチェンジしていくことです。多世代の様々な意見を集め、市民の共感を得ていくことこそが、より良い新城に向けた確実な第一歩になると考えます。

出てきた意見を反映させるためには、簡単なことから始めたり、既存のサービスを活用したり、行政だけでなく地域団体や民間企業を巻き込んでバックアップしていく仕組みも欠かせません。アンケートには表れにくい少数意

見の存在もしっかり理解しながら進める必要があります。

このように、多世代が気軽に立ち寄り、本音を語れる場所が存在すること、それによって、これまでにない新しい発想や意見が生まれる、そして、市民同士が自分たちの手で地域課題を解決していくきっかけになると私たちは期待しています。

若者の活気を生かし、多世代がともに未来を描ける新都市を目指して、この継続的な場所づくりを進めていきたいと考えています。

イ 意見交換の内容

Aグループ	鹿角市では、温泉が有名だが、男湯と女湯の間に大きいホワイトボードがあり、そこになんでも自由に書くことができる。「〇日にイベントがあります。」のように書いている人もいる。また、コモッセという施設があり、カフェ、図書館、ホール、フリースペースなどがある。男女問わず幅広い年齢層が利用することができる。
Bグループ	多世代でいろんな人と本音で話し合うには、心理的に安全な場所が必要。ただ、そのような場所ができたとしても若者は来ないと考えられるが、食を通じて交流できれば若者も参加しやすいのではないかな。
Cグループ	小学生の終業式や修了式の後に地域のボランティアの方が面倒を見てくれるという話があり、それを自治区ごとに置いてみるといいのではないかな。 場所を作ったとしても、本当にみんなが本音を話せるのだろうかという意見も出た。
Dグループ	新規の人の意見だけでなく、一度市外に出て戻ってきた人の意見を集めたり、今日みたいな楽しいイベントがあったり、移動式の若者議会のような話ができる場があったりするといいいのではないかな。
Eグループ	世代交流が現時点であるのか現状を共有し合ったが、地域交流自体が少ないという話であった。今ある既存のイベントにボランティアとして若者が参加するといいいのではないかな。
Fグループ	意見の交流は、現状ボランティアの場などにしかない。町内会はあるが、子どもの数が減っており子ども会はないという現状が共有された。 年配の方と交流する際には、何を話せばいいのか分からないという意見もあるため、例えばテーマに沿って話し合うなどの機会があると、意見の交流が深まっていくのではないかな。
Gグループ	若者議会のPRをもっとしていく、若者に限らず大人への周知もしていく、市の政策について本音を話せる匿名のチャットをつくるという意見が出た。

3 自由意見交換

部会の内容ごとに意見交換をした後、自由なテーマで意見交換を行った。以下は、意見交換後に各グループから全体に共有された内容である。

Aグループ	鹿角市では、牧場や冬のスキーなどに若者が集まり盛り上がる。新城市でも、特定の時期だけであっても、人が来て盛り上がるような何かがあるといい。
Bグループ	若者が活躍するまちにするには、今回のように他の市の若者とオンラインなどでつながり、事例などを共有できるといい。方言の話でも盛り上がったが、場を和ますためにもそのようなコミュニケーションが大切。
Cグループ	今後、進学や就職で自分の市から出ることになった時、いずれまた戻って来たいかという話をした。愛着があるため、戻って来たいという声が多かったが、もっと他の市を見たり、広い知識をつけたりしたいという意見もあった。
Dグループ	若者が活躍するためには、一度新城から出た人が戻ってこることが必要。そのためには、施設の充実などよりも、まずは市民が新城愛を持てるようになるといい。
Eグループ	新城に残りたいかどうかという話をした。働き先の情報を得にくい、暮らすのに便利な豊橋や豊川に住みたい、医療面や学校の少なさから住みにくいといった意見があり、新城市も鹿角市も住み続けるのが難しい状況にあることが確認された。 若者の活躍の機会については、今若者議会で考えているような若者が集まれる場所、世代を超えた交流の場所が大切。
Fグループ	若者議会への参加について話し合った。この会場の男女比は半々くらいであるが、鹿角市から来ているのは女性のみ。若者議会に入るハードルが高く見られがちであるため、堅いイメージを払拭したり、認知度を高めたりして入りやすくできるといい。
Gグループ	進学や就職で市外に出たとしても、市外にはないものが市内にあると、戻ってきたいという気持ちが強くなるのではないかな。